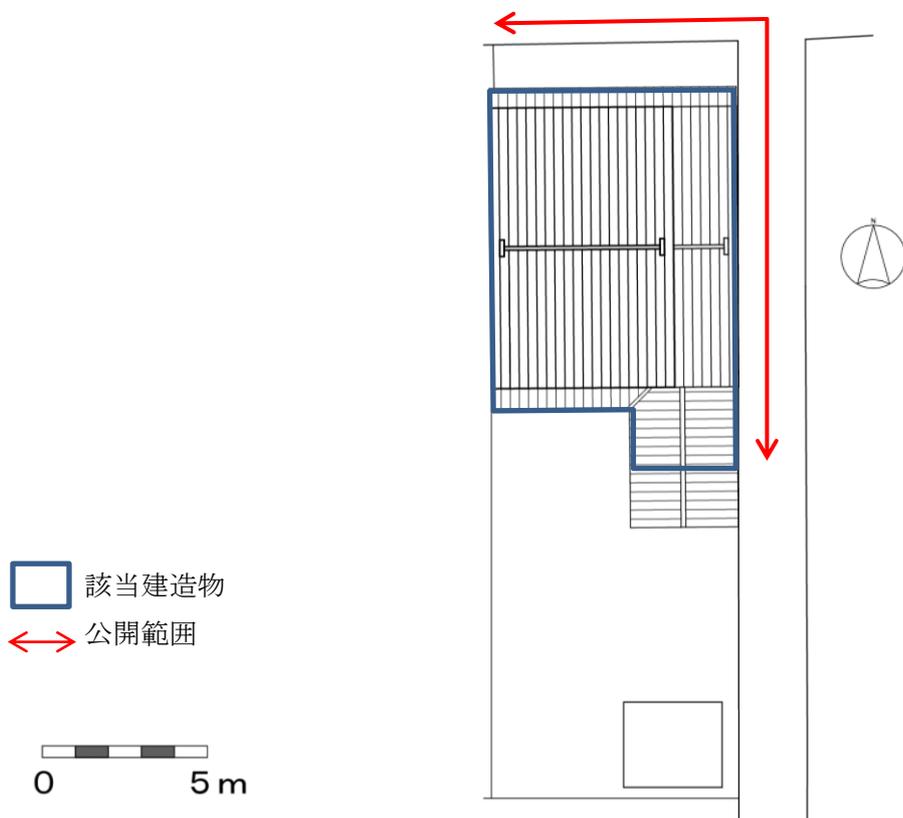


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	6	名称	廣岡家住宅	
指定年月日	H30.6.25	所在地 (指定地)	奈良市法蓮町1106番地2	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	昭和初期頃	木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
	渡廊下		昭和初期頃	木造平屋建、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>平城宮跡と東大寺転害門を結ぶ東西の通りである一条通り沿いで、かつて近鉄奈良駅の北側にあった旧法蓮村の北西に位置するこの地は、江戸時代は奈良の町に隣接する農村地域で、明治末以降、昭和初期にかけて鉄道の開通とともに、住宅地として発展してきた。</p> <p>昭和初期頃に、近隣に住んでいた廣岡家が、もと水田だったと伝わるこの地を購入し、住居として建てたと伝わる。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は、土間部を落棟とし、卯建がつく本2階建の町家である。以前、寿司店が営まれた際に1階部分が改修されていたが、平成29年度に住宅として使用するための復原修理が実施された。痕跡調査に基づき、正面に設けた下屋を開放とし、出格子が付く旧規に復された。復原された外観は昭和初期頃の町家の姿をよく示し、似た形式の町家は近隣でもよく見られる。同町に農家住宅以外の建物が建てられるようになっていったころの様子を示す一例といえる。付属屋は主屋南東に位置する切妻造の簡素な建物である。付属屋の南側1間は、後世、風呂を設けた際に増築されたものである。</p> <p>(改修等)</p> <p>昭和中期以降：付属屋南側を増築</p> <p>昭和後半：1階居室部を店舗に改造し、外壁位置を前面に1間移動し増築。戸口も半間前方に移す。</p> <p>平成29年：昭和後半の増築部を撤去し、戸口、出格子を復原。</p>			
活用	住宅として使用。			
価値	奈良町の中でも農村地域から住宅地に変遷した同町における都市形成の過程で建てられた昭和初期頃の町家の例であり、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持・向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳
配置図



付近見取図

